

作品制作や日本コンテスト、さらにグローバルコンテストで得られた貴重な経験

「走れ! ナコイチ~故郷のために~」で、2014年度 KWN 日本コンテストの最優秀作品賞を受賞した福島県いわき市立勿来第一中学校は、一昨年も最優秀作品賞を受賞し、2連覇を達成しました。常に地域に根ざしたメッセージ性の強いテーマを取り上げ、人と人との絆やふれあいの大切さを中学生目線で描き続ける同校。被災地復興のチャリティリレーマラソンを題材にしたこの作品を通し、彼女達は何を感じ、学んだのか。KWN 参加への思いも含めて語っていただきました。



2014年度 最優秀作品賞 / ドキュメンタリー賞
『走れ! ナコイチ ~故郷のために~』



いまだ傷の癒えない被災地の現状を知ってもらおうべく、チャリティリレーマラソンに参加した生徒達の姿を追ったドキュメンタリー。

自信がついて、新しい世界が開いた

作品制作の経緯や、苦勞した点、学んだ点を教えてください

園部 今回は先にテーマを決めていたわけではありませんでした。地元のFM局からチャリティリレーマラソンのお話をいただいたのがきっかけです。それが作品になるかどうかはわからないけれど、とりあえず記録として撮ろうということになって。でもみんなの走る姿を見たら、「作品にしたい」と強く思うようになりました。

今村 私は最初、走るのがとても嫌で……(笑)。運動部ではなかったので抵抗がありました。でも、被災地と東京の中学生と一緒に走るなかで、互いに応援し合って仲良くなり、交流できたことがすごく嬉しかったです。

大内 そうした姿を皆さんに観てもらいたい、人と人の交流を映像で表現したいという私達の思いがこの作品になりました。私はおもに撮影を担当したのですが、どうすれば相手に伝わる

のか、いい絵が作れるのか、いろいろ考えながら撮るのが大変で……。
今村 マラソンの撮影以外にも、いろんなイベントやインタビューの撮影など、半年以上にわたって撮影を行ってきたので、その大量の映像を5分間にまとめるのもとても大変でした。印象的な映像ばかりだったので、切るのがもったいなくて。

園部 私は監督をやらせてもらったのですが、人を題材にするのは今回が初めて。撮影自体が難しかったですし、あとは、インタビューでの言葉の使い方や接し方にも気を遣いました。特にいわき市内の仮設住宅にうかがった際にはどう言葉をかければいいのか、やはりすごく考えました。

亀岡教諭 皆それぞれ役割をしっかりとこなしていたと思います。自分達なりに考え、時には先輩のやり方を見習いながら、自主的に進めていくのです。私はアドバイスはしますが、基本的に教えることはありません。なのでこのKWNを経験すると、やはり成長する面が多々あるように思います。

大内 いろんな場所に行ったり、いろんな人達に話を聞いたり、さまざまな経験をさせてもらったので、人前に出てあまり緊張しなくなりました。

今村 私もそうです。以前は人見知りや消極的だったのですが、人と話す機会が増えたことで自信が付き、新しい世界が開けたような気がします。

将来はイベントを企画・運営する仕事をしたい



園部夏帆さん

園部 グローバル表彰式でシンガポールに行けたことも大きな経験になりました。海外の子達と交流を持てたことは貴重な体験でしたし、作品にも刺激を受けました。言葉をメインにするのではなく、映像や音響を工夫して、伝えたいことをちゃんと表現しているところがすごいな、と思って。

大内 ドラマなどいろんなジャンルの作品があり、自分達とはまた違った視点からテーマを考えているところも参考になりました。交流会では、他の国の子達のように英語が話せなくて、もどかしい思いもしたのですが、ジェスチャーでも気持ちが伝わると嬉しかった

忘れられない一生の思い出になりました



大内玲奈さん

積極的に話せるようになりました



今村菜々花さん

「未体験でも勇気を持って一步踏み出す。挑戦することの大切さを学びました」



たですね。

今村 英語をあまり話せなくてコミュニケーションを取るのが大変でしたが、気さくに話しかけてくれて、私も積極的に話すことができました。

園部 その時に海外の子達と連絡先を交換したので、今も連絡を取り合っています。これをきっかけに英語をもっともっと勉強しようという気持ちになりました。今3人とも頑張っている最中です(笑)。

大内 KWNのコンテストに作品を出したり、シンガポールに行ったり、未経験のことなのでやはり不安はありましたが、勇気を出して一步踏み出したことは、自分にとって大きなプラスになりました。何事も挑戦することが大切だと感じています。

今村 報道委員会での3年間は本当にいい経験で、少しは成長できたかな、と思っています。先生がいつもおっしゃるように常に謙虚な気持ちと感謝を忘れずに、これからもいろんなことに挑戦していきたいと思っています。

園部 KWNの活動は、取材に行ったりインタビューをしたり、普通の学校生活では体験できないことばかりでし

グローバル表彰式とは

KWNに参加する世界各国の小中高校のビデオ作品を審査する「グローバルコンテスト」。グローバル表彰式は各審査を経てグランプリ候補にノミネートされた作品が参加する。2015年度はKWNの発足以来初めて東南アジアで開催され、世界19の国と地域553校から選ばれた7校がシンガポールで表彰された。



た。これから制作をされる皆さんに、もしアドバイスを伝えるとするなら、そうした体験の1つひとつを大切に、自分に生かして欲しいと思います。そして、自分がそのような体験ができるのは周りで支えてくれる人がいるおかげなので、感謝の気持ちを持っ

て取り組んでほしいなと思います。
亀岡教諭 彼女達や今回作品に携わった他の生徒達の頑張り、それを支える人達の思いが結果に繋がったのでしょう。KWNは生徒達にとってとても有意義なプログラム。今後もずっと続けていきたいと思っています。

映像作品が仕上がるまで

ある学校的具体例を紹介します!



取材をもとに、どのような映像が必要であるかを絵コンテに起こします。具体的なビジュアルをイメージ!

絵コンテをベースに実際にカメラを回します。同時にコメントも収録するのでシナリオづくりも大切です。

撮影した映像を作品に仕上げていきます。取材映像の構成の組み立てや、効果音など吟味して完成させます。